

園名 明日香村立明日香幼稚園

はばたくなら①⑥

子どもの「やりたい」が発揮される  
保育環境

5歳児 9月～10月

取組について

- 本園では、主体的な遊びを大切にし、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた保育の充実を目指している。子どもの姿勢が崩れやすく、家庭ではテレビゲームや動画サイトの視聴などで外遊びの時間が少ないという現状から、本年度は「じょうぶなからだ育て」を目標に、しっかり遊ぶ子どもを育てるための取組を進めている。
- 身近に楽しめる運動遊びを取り入れ、子どもが自ら関わって遊ぼうとするための環境構成や、主体的・対話的で深い学びにつながるための保育者の役割を探っていく。また、園内研修を通して子ども理解を深め、子どもの「やりたい」気持ちを大切に遊びの充実を図っていきたいと考える。
- 明日香村では、平成25年度より明日香幼稚園・明日香小学校・聖徳中学校で施設分離型の幼小中一貫教育に取り組んでいる。幼稚園年少3歳児から中学校3年生までの12年間を通してどのような力をつけていくか、幼小中の教員が校種を越えて話合ったり、互いの保育や授業を公開して合同研修を行ったりしながら、教育の質を高めるための取組を進めている。

実践事例 [ ] …園内研修内容 [ ] …子どもの姿 [ ] …園内研修で得られた保育者の気づき

**園内研修①** 明日香小学校では2学期より、主体的・対話的で深い学びの授業づくりのために、学習過程の段階を「とらえる」「かかわる」「まとめる」「ひろげる」と捉えて学習を進めようとしている。そこで幼稚園でも、主体的・対話的で深い学びにつながる学びの過程について話し合った。

明日香村幼小中一貫教育における「主体的・対話的で深い学び」につながる学びの過程（幼稚園の捉え）実践前

であう

- ワクワク・ドキドキできる出会わせ方の工夫をする。（掲示物・絵本・テレビ・タブレット端末・保育者の話）
- 時期、興味・関心にあったものを取り入れる。

かかわる（やってみる）

- やりたい気持ちがわきあがる環境を工夫する。  
人的環境…友達や保育者との関わりから  
物的環境…楽しい雰囲気、遊びが実現できる場と空間、  
ゆったりと遊べる時間
- 子ども理解をする。（園内研修）

まとめる

- 遊びのふりかえり・話し合いをする。  
→子どもの思いを出し合い、共通のものにする。  
（共有するための工夫 クラス→学年）
- ふりかえりの時間を確保する。

ひろげる

- 異年齢児交流遊び（他の学年との共有）
- 他の学年の保育者との話し合い・共通理解（園内研修）
- 遊びの環境の再構成をする。

実際の保育展開では  
であう

- ・夏休みに各家庭でのオリンピック観戦でいろいろな競技に触れる。
- ・保育者からオリンピックの話題を聞く。（競技やメダル獲得数）
- ・メダリスト一覧や新聞の切り抜きの掲示などオリンピックに触れられる環境をつくる。

かかわる（やってみる）

- 掲示物の卓球の部分指差して、  
A児「これ知ってる」と言って水谷選手のサーブの真似をする。  
B児「お兄ちゃんやってる、テレビで視てた」  
A児「こんなんできるのかな」  
保育者「どうかな？」と子どもと一緒に考え、子どもの反応を待ってみる。  
C児「打つやつとボールがあつたらできるんちがう？」  
保育者も一緒に廃材を探しに行き、子どもの主体的な行動を引き出す。

であう

新しい素材や、友達のアイディアと出会う。

子どもは「であう」と「かかわる」を繰り返している。



### かかわる(やってみる) 卓球から『ころっきゅう』へ



自分のラケットづくりができる

やりたい



友達と勝負ができる

やりたい

ゴールを作って点を入れたいな

お客さんを呼びたい!

壁を作って落ちないようにしたい

ボールを変えてみよう

4人でやってみよう

もっと広くしたらいい!

落とさないように何回続けられるか挑戦したい!

一緒に遊ぶことで、保育者が  
子どもの思いを共感する



ピンポン玉ではラリーが続かずに、遊びを楽しめなくなってきていた。保育者は材料を子どもと一緒に探す中で、テープの芯や発泡スチロール球を「こんなのもあるよ」と提案してみた。実際に使ってみた子どもはうまく転がることに気付き、友達と続けることが楽しくなり、「転がる卓球」=『ころっきゅう』と名前を考えて友達同士で遊び込むようになった。

「かかわる」中で、何度も試行錯誤を繰り返している。

**園内研修②** 子どもの「やりたい」気持ちを  
実現させるために、効果的に働いたのはど  
のような保育環境だったのかを話し合った。

- ・一緒に遊びを楽しめる友達と保育者がいた。
- ・自由に遊びを組み立てたり仲間を集めたりして主体的に遊びを進めていける保育者の関わりがあった。
- ・作りたいと思ったものが作れるいろいろな素材・材料・道具があった。
- ・どんなことができるだろう、どんなものができあがるのだろうとドキドキ・ワクワクする雰囲気があった。

友達の姿を見て子ども  
の「やりたい」気持ちが  
刺激され、いろいろな遊  
びをやってみようとする。

やりたい

**園内研修③** この遊びでどんな力が育っているの  
か、他の学年の保育者も交えて意見交流をした。

- ・意見を出し合い友達と協力しながら、やりたいことが実現に向かっているね。
- ・「3, 4歳児もみんな遊びに来てほしいな」といった思いから、どの子も楽しめるように考えられるようになってきたね。

遊びが広がる

野球

ゴルフ

モデル  
ショー

サッカー

ボウリング

まとめる

ひろげる

へと  
続いていく

### (まとめ)

- ・園内研修をすることで、保育者それぞれのいろいろな意見や思いに刺激を受け、違った角度からの視点が得られ、子ども理解から子どもの主体的な遊びの展開につながった。
- ・『明日香村幼小中一貫教育における「主体的・対話的で深い学び」につながる学びの過程』に沿って遊びを読み取っていくことで、小・中学校へと連続した12年間の育ちを意識することができた。

### (成果)

- ・園内研修を通して子ども理解をすることで、保育者が子どもと共に不便や問題と向き合いながら工夫を重ねて改善していく過程や、「やりたい」という気持ちから「やってみよう」という主体的な活動につながる環境づくりの工夫や再構成をすることが、保育者の役割であることがよくわかった。
- ・遊びの中の学びを「であう」「かかわる」「まとめる」「ひろげる」の過程に分けてみていくことで、遊びの流れを見える化し学年の保育者の意見を聞くことができ、園内研修の成果につながった。

### (課題)

- ・子どもが主体的に遊ぶために環境の再構成をどのようにしていくか、今後も職員研修で深めていきたい。
- ・ねらいを明確にし見通しをもちながら思う存分に遊び、「まとめる」「ひろげる」の段階へ進めていきたい。